

い遊な

特 72
23



特々 23

ひな遊び

ひな遊びの由来につきては諸説まち



見ゆ一説には神功皇后三韓を征し凱歌を謡
 上程奮くより行はれたるも
 分きびたきも
 播磨灘まで来り給ひしに浪風いさ荒かりけ
 津の國住吉の岸に寄せ此處にて御上陸あり
 給ひたる後住吉に御社參あらんこそせしが
 紙にて御身の形と皇子の形と
 御衣ありたり云々又或は皇后御船に
 紙に御衣ありたり云々又或は皇后御船に
 御衣ありたり云々又或は皇后御船に
 御衣ありたり云々又或は皇后御船に

せしが皇子も亦此程より御不豫に在はしけるにぞ皇后
 阿波島明神に祈念し給ひ白紙を以て御母子の御雛形を
 截り龍体を撫でさせ海中に投下給ひしに明神の加護空
 しからず御惱頓に御平癒まし〜けり云々も傳ふ兩
 ながら其説の少しく齟齬の點なきにしもあられどそは
 兎も角も其始は人形を造るに紙を以てしたるは確なる
 事實なるが如し紙雛に大小あるは皇后皇子の御姿を表
 はすものにて皇后の方は大く皇子は小さし古は人生れ
 て六月迄は襦袢と云へる物に裏み置きしことなれば皇
 子の方は襦袢の内の體を示せるなり襦袢は俗に之をむ

つきと訓ぜり又明神へ衣類様の物を奉るも全く此遺風
 に源けるなり又別の説には雛祭は夫婦和順の様を摸擬
 したるものにて雛といふは少彦名尊の御形を象りたる
 ものなり此神世の病難を救はん爲に醫藥の術を撰め給
 ひし縁によりて雛祭を病難を拂ふ祭なりともいふ斯く
 諸説まち〜にして其濫觴も確ならねどうつほもの語
 源氏物語枕草子などにひこな祭ひこな遊ひこなあはせ
 などいふこと往々見られたれば餘程蓄くより行はれたる
 ことは疑なし去るにても昔は元朝にても野分の朝にて
 も翫びしこと見られたれば其之を飾りて遊ぶに別に定り

たる期節もなく固より平生の遊びたりしが如し扱人形
 に鳥の子の雛さいふ語を轉用せしはいかにさいふに素
 雛は小さきものなれば他の物に擬したる小さき象をも
 雛さいふ人形は大概小形なればひくなさいひそめしな
 り和訓栞にも雛は小形をいふひな形などいふが如しと
 て人勝をばひくなさい呼べり記せり但三月三日に之を
 行ひ又是を棚に並べて酒食を供ふることは何日の頃よ
 り行ばれしものにや是も確なることを知るを得ずと雖
 もひくな問答さいへる書に記す處を見れば三月三日に
 ひくなを立てる事は巳の日のなでものより始りたる事

なるべし三月上巳の日には古はらひをするこゝあり菘
 さは身の災を菘ふなり此菘をするには陰陽師の許より
 紙の人形を送るを其人形にて身を撫で陰陽師に遣は
 せば夫れにて菘を行ふなり人がたは我身代になるなり
 左れば人がたをかたしることもなでものさといふ源氏物
 語あづまの巻の歌に見し人のかたしるならば身にそ
 へて戀しき瀬々のなでものにせむさよめるにて知るべ
 し古は彼人がたを陰陽師の許に遣はし菘を行はせたる
 を後世は菘の具にはせず棚に並べて酒食を供へ遊びも
 のさばせり是れ巳の日の菘の具さ古の女子の戯れのひ

くな遊びあそびと一つに交りまじしなるべし今日世こんにちよに紙かみのひくな
 をひなの本式ほんしきなりと云いひ傳つたへたるは彼巳かのみの日の萩はらひの紙かみ
 の人形にんぎやうより出いてし故ゆゑなるべしとあり又佛書ぼつしよにも三月三むかつ
 日は辨財天御子べんさいてん五百童子ごももこに對面たいめんの日ひなりと云いへば萬民ばんみん
 此例このれいにならひて此日このひを以もて子孫繁昌しそんはんじやうの祝いばひ日びともなし
 しなるべし扱さて又上巳またじやうみと云いふことは何なにに源もときしかさいふ
 に周しうの成王せいわうの淫事いんじを好このめるより川かはの上かみに船ふねを浮うかべて曲まが
 水の宴えんを設まうけ水上みなかみより盃さかづきを流ながして遊樂ゆうらくせしは三月三日むかつか
 にして其日そのひは恰あたも上じやうの巳みに當あたりしゆゑ末すゑの代之よこれを上巳じやうみ
 と稱とをへ毎年上まいねんじやうの巳みの日ひに於おいて遊樂ゆうらくするを以もてならはし

させしが此遊このあそびを必かならず三月三日むかつかと定さだめたるは魏ぎの世よより
 以來のちの例ためしなりといふ又周またしうの曲水きよくすゐの遊あそびに草餅くさもちを王わうに獻けんす
 るものあり王わう其味そのあじの美びなるを悦よろこび此餅誠このもちまことに珍物ちんぶつなり若も
 し之これを宗廟そうべうに獻けんせば周しうの世大よおほに治さまりて終つひに大平たいへいならん
 と宣のたまひしとぞ是これより人々相傳ひとひとあひつたへて此日このひに草餅くさもちを祖君せんぞへ
 進すすむるの例れいさはなりたりといふ我國わがくににては神功皇后じんこうこうごうが
 紀州加田きしうかたの浦うらにて御不豫ごふよにかゝらせ給たまひし時阿波島明ときあはしまみやう
 神じんに祈いのりて御惱おんなやみ御平癒遊ごへいゆあそばされしかば其御禮そのおんれいの爲ためとて
 濱邊はまべに生おひし母子草ははこぞを摘つませ給たまひ此草このくさは母子ははこと呼よびて
 能よく朕ちんが身みに適かなへりとて捧さげ給たまひしは即すなはち草餅くさもちの始はじめに

て之に蓬を用ふるに至りしは嵯峨帝の御宇にてありし
 なり帝の御母公三月三日に薨トさせ給ひければ天皇は
 今朕が母を失ふ何ぞ母子と名くる草を以てせんや宜し
 く他の草を以てすべしとて蓬を以て之に代へられけれ
 ば後世是より蓬を用ふることはなりしなり特に蓬は
 寒風を凌ぎて芽を發するものにて邪氣を防ぐの大功あ
 りとぞ云ふ桃の花を酒に入れて飲むも此等の意味によ
 りしものにやそれはさて置きこのひくな遊さいふこと
 は幼げなき時よりかしづかふべき行儀作法衣服配膳の
 品をならばすなご女子には至極適當の遊なり然るに維

新以後は道々に此等の遊も廢りて今は只人形を弄ぶの
 みに過ぎず女兒は自ら主人となりて賓客を招くなごい
 へることは極めて少きやうなれどもかゝることは女兒
 の爲には随分有益なる遊にてあるべければ古の儘なら
 ずとも其模様をさりて一般に行はれたきものなり特に
 今の女兒は日々物の學びに忙はしく自然家にあること
 も少く随つて家事を見ならふことこの暇も足らざるべけ
 ればかゝる時を機會として手づから食物を鹽梅し其親
 戚朋友なご心易き人々を招きて自ら主人となりて振舞
 をなし他日人の妻母となりて家政を執る時の下稽古を

爲し置くも亦面白からんと思はる尤も其道具の飾り付け
け賓客の接待料理の種類などは様々の思ひつきもある
べければ是等は各自の考に任せて種々に工夫を務めて
當節に適する遊遊をなすべきは亦固ふりのことなりと
す

明治二十七年四月十二日印刷
明治二十七年四月十五日發行

定價金八錢

編輯者

村 木 經 策

發行者

高 橋 省 吾

東京神田區表神保町三番地

印刷者

佐 久 間 衡 治

京橋區西紺屋町廿六七番地

發行所

東 京 堂

神田區表神保町三番地

印刷所

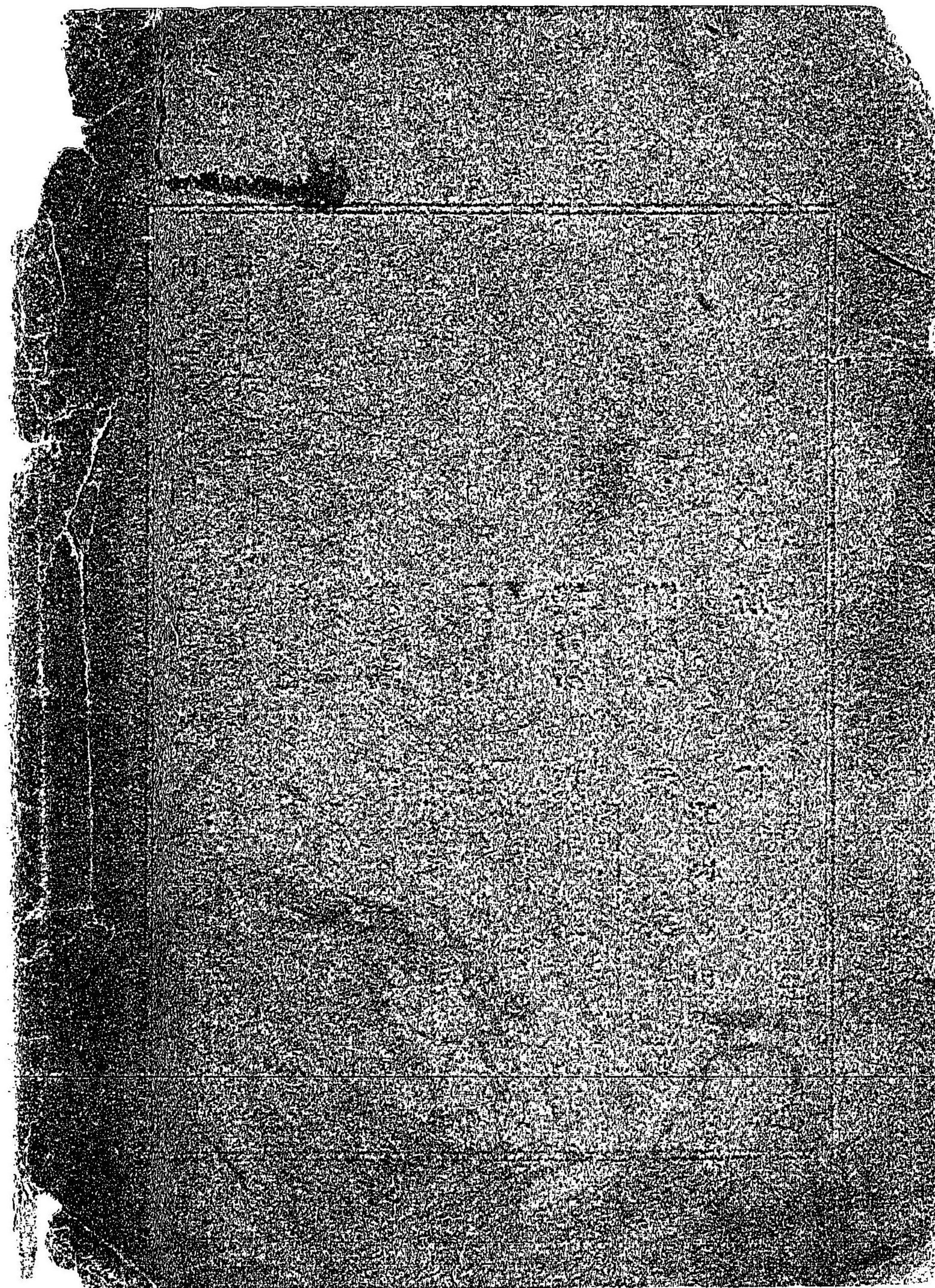
秀 英 舍

京橋區西紺屋町廿六七番地

大賣捌所

博 文 館

日本橋區本町三丁目八番地



特 72

23

301565-001-7

特72-23

ひ、な遊び

村木経策 / 編

・ M27. 4

ADJ-0001

爲し置くも亦面白からんと思はる尤も其道具の飾り付
 け贅容の接待料理の種類などは様々の思ひつきもある
 べければ是等は各自の考に任せて種々に工夫を務めて
 當節に適する遊遊をなすべきは亦固よりのことなりと
 す

明治二十七年四月十二日印刷
 明治二十七年四月十五日發行

定價金八錢

編輯者

村木經實

盛岡市八日町四十番地

發行者

高橋省吾

東京神田區表神保町三番地

印刷者

佐久間衡治

京橋區四組屋町廿六七番地

發行所

東京

神田區表神保町三番地

印刷所

秀英舎

京橋區四組屋町廿六七番地

大賣捌所

博文館

日本橋區本町三丁目八番地